



●新春対談

日加関係を語る

駐日カナダ大使 ブルース・ランキン
日本経済新聞論説主幹 武山泰雄

最近、日本とカナダの関係は、とみに重要性を増して

参りました。特に経済関係は著しく成長しました。こ

れはもちろん喜ぶべきことですが、半面、日加双方に

いろいろと懸念される問題もあります。そこで日加関係

がさらに発展するよう、そういう問題を含めてざつ

ぱらんに話しただきたいと思えます。日加関係はも

ちろん貿易だけにとどまりません。政治的、あるいは文

化的関係も活発になっております。そういう側面について

も、お話しただければ幸いです。

——広報部

転機を迎えたカナダ

大使 武山さんは昨年夏、カナダへ行かれたわけですが、カナダの印象はいかがでしたか。

武山 カナダへは日本の経済使節団のメンバーとして、あるいはほかの機会に行ったことがあり、今度は四度目の訪問でした。しかし、アライアツ・ジュ・コロンビア、オタクワ、トロント、ケベック、シナイと、いろいろな所を訪問したのは、今回が初めてでした。特に家内にとって

は初めてのカナダ旅行で、大層喜んでおりました。今年度の訪問はわずか二週間と短期間で

したが、前に訪問したときと比べてお国

が大きく発展していることに感嘆しまし

た。と同時に、カナダが経済的にも、政

治的にも、あるいはいろいろな意味で大

きな転機を迎えているという印象を受け

ました。カナダが、現在、苦しい自己再

評価の渦中にあるのではないかと、この

とです。

大使 わが国は、どうもそういう自己

再評価の時期を何度も何度も迎えるよう

です。

武山 なぜそういう印象を受けたのか

考えてみたのですが、どうも一つには時

間的な要因、もう一つには構造的要因が

あるような気がします。一番目の要因に

ついて申しますと、石油危機以来の国際

的政治・経済状況の変化に対する調整に、

カナダが遅れをとったのではないかと

いうことです。例えば、カナダの国民が、

最近まで自分たちの将来や生活水準に対

してあまりに高い期待をかけていた

ように思われます。それに、カナダにお

ける石油の国内価格も国際水準より比較

的に低かったように記憶しているのです

が、どうもその点、高価格エネルギー経

済への調整も遅れたという感じがします。

一番目の構造的要因というのは、カナダ

の政治構造や国内政策を原因とする政治

的、経済的不安定のことです。例えば、

私の印象では、カナダは連邦政府と州政

府の関係がきわめて複雑です。特に天然

資源に関する政策決定の分野でそうだと

いう気がします。私がアルバータ州にい

たときのことですが、その炭鉱経営者

は政府の石炭政策のせいで、自分たちの

開発計画がすでに二年も遅れた、とこぼ

していました。そういう複雑な州・連邦

関係は、どうも英国による植民地支配の

遺産ではないかと思えます。私の誤解か

もしれませんが、つまり、州政府に

大きな権限を与えれば、英国としてはカ

ナダ全体の操縦がし易くなる、というこ

とですが、間違っていたら正して下さい。

この構造的、国内政治的問題に関連す

ることですが、もう一つの不安定要因と

して政府と経済界がうまくいっていない、

かなり敵対関係にあるということが指摘

できると思います。ピクトリアでもカル

ガリー、あるいはトロントでも、経済界

の人たちはみんなな政府と経済界の仲が悪

いとぼしてしましました。これではカナダ

の市場経済の将来が心配されます。一部

の財界指導者も、カナダの市場経済の先

行きに深い懸念を抱いています。これ

も強く心に残ったことです。さらに、労

働組合幹部が経営者を敵視し、現実

対して目をつぶっているのではないかと

いう印象を受けました。もう一つカナ

ダの経済人が強調していたことは、カナ

ダの経済規模からすれば、現在の労働賃

金は米国の八割程度に下げるべきだ、と

いうことです。カナダの賃金水準が高ず

きるといふのは、周知の事実であります。

結局、カナダが構造的要因および国内

政策による不安定に直面し、大きな転機

を迎えているのではないかと、という印象

を私は受けたわけですが、そこでお尋ねし

たいのは、ごく大まかな質問になります

が、どういう政策あるいは構造転換をカ

ナダ国民は求めているのだろうか、とい

うことです。

大使 とても興味深いお話です。しか

も、大半は反論しがたい内容です。確か

に、カナダはほとんどの国より遅く世界

的不景気に仲間入りしました。気を許す

べき時でないのに安閑としていた、と言

えるかもしれません。例えばエネルギー

価格について、国内に何らかの形でエネ

ルギー資源が豊富にあるということ、で、

石油危機で世界中が大騒ぎしているとき

にカナダ人はそれほど深刻に考えていな

かったように思われます。石油の国内価格

は、現在でも国際価格を下回っています。

輸入石油への依存度が高まり、在来石

油が徐々に減少していくにつれて、国際

価格にだんだん近づいてきてはいますが

……。余談ですが、最近、すぐにも採

掘可能な良質の油田が見つかりそうだ

ということが、アルバータ州のウエストベ